

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
患者中心の歯科医療を行うための情報提供内容調査と提供方法構築の研究
令和元年度 分担研究報告書
歯科領域の診療（保険診療・自由診療）の情報提供に関する研究
（歯科医院通院患者に対する実態調査）

研究代表者 荒木 孝二 東京医科歯科大学 教授
研究分担者 則武加奈子 東京医科歯科大学 助教
研究分担者 恒石美登里 日本歯科総合研究機構 主任研究員
研究分担者 森山 啓司 東京医科歯科大学 教授
研究分担者 塩田 真 東京医科歯科大学 准教授
研究分担者 鶴田 潤 東京医科歯科大学 准教授

研究要旨

【目的】患者である国民が歯科診療に関して具体的にどのような情報提供を求めているのか、どのように情報を得ているか等に関して実態を把握し、患者中心の歯科医療を行うために歯科医療従事者に求められる情報提供の内容・方法に関する提言書の基礎資料とする。

【方法】本研究に使用するアンケート調査票を作成し、公益社団法人日本歯科医師会ならびに同会員の協力のもと同意の得られた 20 歳以上の歯科医院通院患者に無記名アンケート調査を郵送法にて実施した。

【結果】アンケート回収率は 146 部（7.3%）、有効回答は 106 部（5.3%）であった。回答結果より、回答者である患者は「治療方法」、「治療費用」、「自分の状態にあった治療方法」、「治療期間」に関して、「口頭での説明」に加え、「説明書・パンフレット」、「個別の治療説明書・計画書」による情報提供を望んでいることが明らかとなった。情報の具体的な入手方法は、約 9 割が「歯科医院で聞く」と回答したが、同時に約 3 割は「家族・友人」「インターネット記事」からも入手していた。

自由診療の経験がある回答者が受けた診療内容は「かぶせもの・入れ歯の治療」が最も多かった。自由診療を受けた際、「費用」に関しては全員が説明を受けていた。担当歯科医師または歯科医院の院長からの口頭による説明に加えて、診療説明書など何かしらの書類を配布されている割合は、67.1%であった。自由診療に関する情報提供・説明・相談にかかった概ねの時間は、「10-30 分未満」が最も多く選択されていた。

また、回答者の居住地、性別、年代で選択に差が見られる設問も認められた。

【結論】本調査の結果より、歯科診療に関して患者から求められている情報提供内容や、具体的な情報入手方法や、自由診療時における情報提供の状況が示された。

A. 研究目的

歯科の医療安全に対する国民の関心は高いと思われるが、患者である国民が歯科の医療安全に関して具体的にどのような情報提供を求めているのか、どのように情報を得ているか、どのような情報が提供されることが患者の安心感につながるのかといったことはこれまでに十分な調査はなされていない。特に、歯科診療における自由診療に関しては、患者への歯科医院からの情報提供が不十分であることに起因したトラブル

ルが少なからずみられる。

令和元年度は、平成 30 年度に使用した質問票を踏まえて、研究協力者・協力団体からの助言をもとに修正を行い、患者側から求められている情報発信内容に関する調査を公益社団法人日本歯科医師会ならびに同会員の協力のもと実施した。本分担報告書では、歯科医院通院患者に対して実施した調査結果を報告する。本研究から得られた知見を、患者中心の歯科医療を行うために歯科医療従事者に求められる情報提供の内容・方法に関する提言書の基礎資料とする。

B. 研究方法

①アンケートの作成

患者である国民が歯科の医療安全に関して具体的にどのような情報提供を求めているのか、どのように情報を得ているか、どのような情報が提供されることが患者の安心感につながるのかに関する大規模な実態調査はこれまでほとんど実施されていないため、まず本分担研究に使用するアンケートの作成を行った。

アンケートの作成にあたっては、平成 30 年度に本研究班で実施したアンケート調査票も参考にし、研究代表者と研究分担者で作成したアンケート（案）を第 1 回班会議（令和元年 9 月 20 日）で質問内容を討議した。その後、研究協力者である日本歯科医師会三井博晶氏との協議（令和元年 11 月 20 日）、小畑法律事務所の小畑真氏からの助言（令和元年 11 月 21 日）を経てアンケート調査用紙が完成した（資料 X：アンケート調査用紙（歯科医院通院患者用））。

②アンケート調査の実施

アンケートの調査対象としては、日本歯科医師会ならびに日本歯科医師会会員の協力のもとに、日本歯科医師会会員約 65,000 名（参考：64,915 名 令和元年 8 月末時点）より無作為に抽出した 1,000 名に通院患者用アンケート調査票を 2 セット郵送し、自院の患者のうち、できればこれまでに自由診療の経験がある 20 歳以上の患者かつ、調査期間中の 1 月 15 日～1 月 31 日の間に来院し同意が得られた 2 名に返送用封筒と一緒に渡してもらう方法で実施すること、また無記名のアンケート調査とすることが第 1 回班会議での協議を経て決定した。

日本歯科医師会へ本研究に対する協力を依頼し、協力承認を受けて、1,000 名の送付先タックシールの提供を受けた。アンケート調査委託業者よりアンケート調査票封入が完了した封筒に分担研究者によりタックシールを添付し、令和 2 年 1 月 14 日に発送した。回答期限を令和 2 年 1 月 31 日とした。期日までに返送された回答用紙は、事前に指定した入力マニュアルに従って調査委託業者によってデータ化された。

納品された入力データのクレンジング作業にあたっては随時アンケート回答用紙原本を参照しながら分担研究者が行った。データの分析作業にあたっては、Microsoft Office2013 Excel ならびに IBM SPSS23 を使用した。なお、本研究は最新版の「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施されている。また、研究代表者、研究分担者は東京医科歯科大学が実施している研究倫理教育講習会を受講済みである。また、研究実施に対する東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認（承認番号：D2018-068）を得て実施した。使用したアンケート用紙には、説明文書の内容を理解し、アンケート調査に協力することに同意した場合のみチェックする欄を設けた。

C. 研究結果

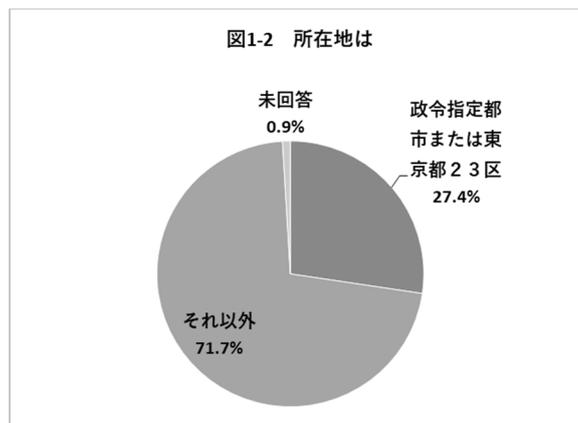
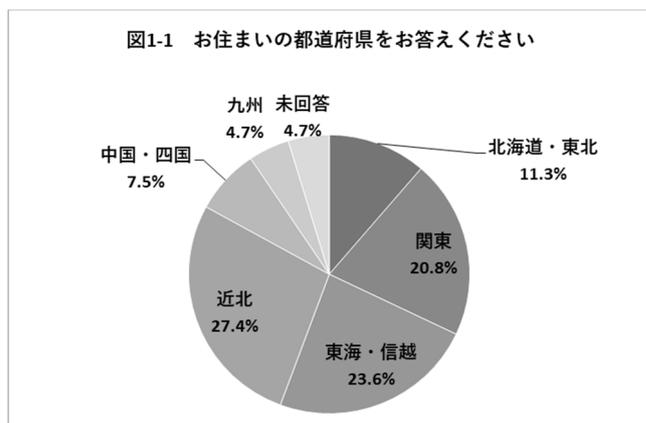
通院患者への調査票配布の協力を依頼した歯科医師会員に関して、各都道府県ブロック別へ依頼人数は、北海道・東北 116 人 (11.6%)、関東 310 人 (31.0%)、東海・信越 157 人 (15.7%)、近北 198 人 (19.8%)、中国・四国 99 人 (9.9%)、九州 118 人 (11.8%) だった。

送付したアンケート用紙 2,000 部のうち、回収率は 146 部 (7.3%) であり、有効回答は 106 部 (5.3%) であった。

【1. 回答者自身について】

1-1 居住している都道府県が、「北海道・東北」は 12 名(11.3%)、「関東」は 22 名(20.8%)、「東海・信越」は 25 名(23.6%)、「近北」は 29 名(27.4%)、「中国・四国」は 8 名(7.5%)、「九州」は 5 名(4.7%)、未回答は 5 名(4.7%)であった。(図 1-1)

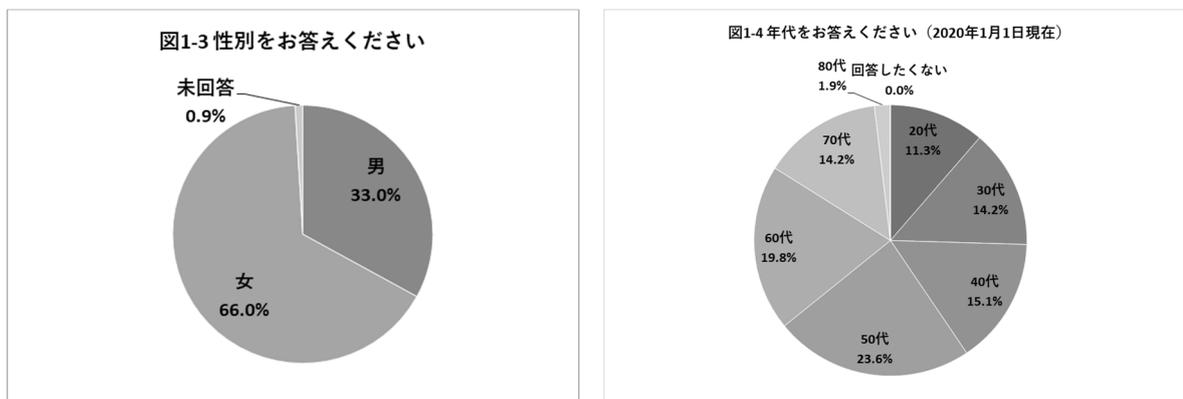
1-2 所在地が「政令指定都市または東京都 23 区」(以下、都市部)は 29 名(27.4%)、「それ以外」(以下、郊外)は 76 名(71.7%)、未回答は 1 名(0.9%)であった。(図 1-2)



1-3 性別が「男」は 35 名(33.0%)、「女」は 70 名(66.0%)、未回答は 1 名(0.9%)であっ

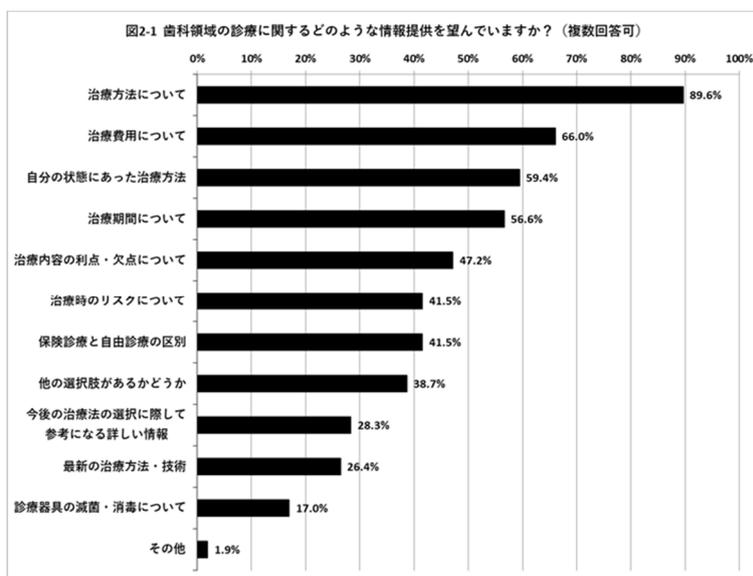
た。(図 1-3)

1-4 年代が「20代」は12名(11.3%)、「30代」は15名(14.2%)、「40代」は16名(15.1%)、「50代」は25名(23.6%)、「60代」は21名(19.8%)、「70代」は15名(14.2%)、「80代」は2名(1.9%)、回答したくないは0名であった。(図 1-4)



【2. 歯科診療に関する情報提供全般に関して】

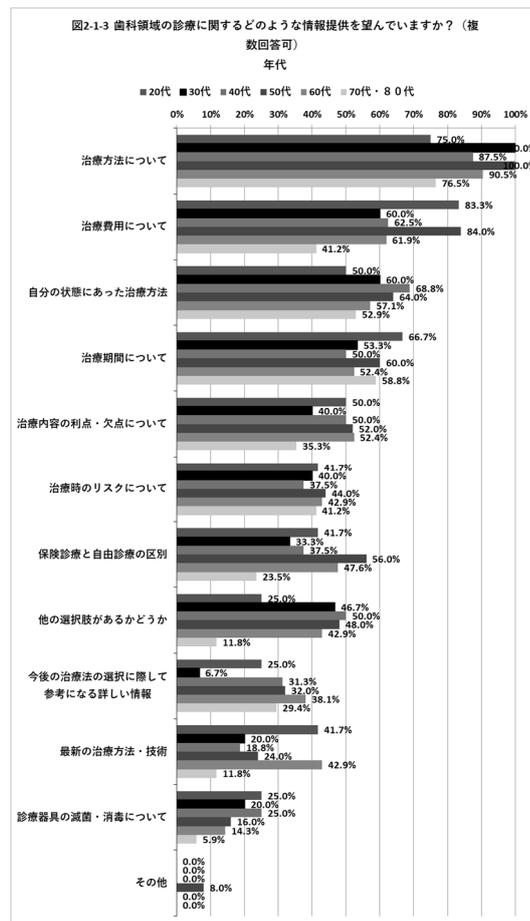
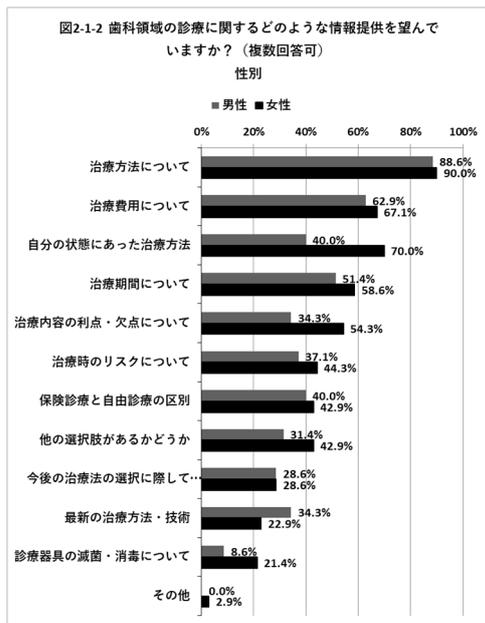
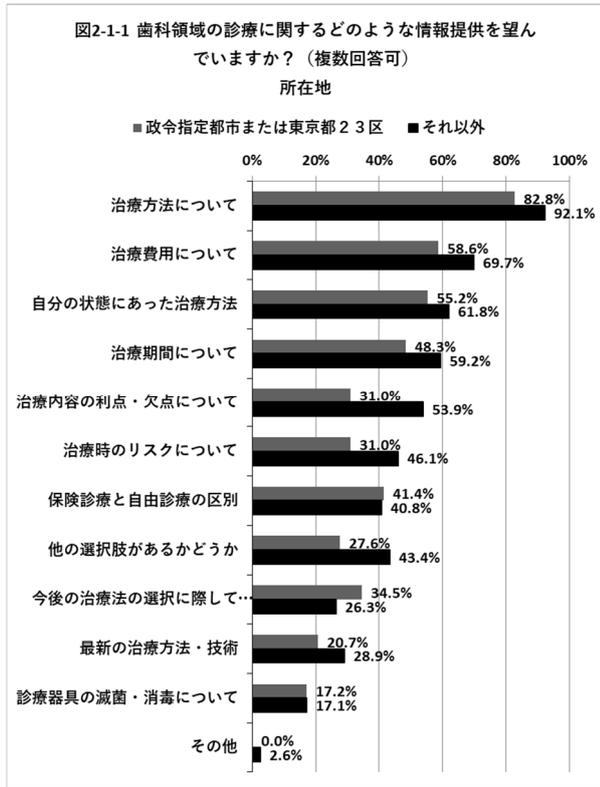
2-1 歯科領域の診療に関してどのような情報提供を望んでいるかは、「治療方法について」が95名(89.6%)、「治療費用について」が70名(66.0%)、「自分の状態にあった治療方法」が63名(59.4%)、「治療期間について」が60名(56.6%)、「治療内容の利点・欠点について」が50名(47.2%)、「治療時のリスクについて」が44名(41.5%)、「保険診療と自由診療の区別」が44名(41.5%)、「他の選択肢があるかどうか」が41名(38.7%)「今後の治療法の選択に際して参考になる詳しい情報」が30名(28.3%)、「最新の治療方法・技術」が28名(26.4%)、「診療器具の滅菌・消毒について」が18名(17.0%)、その他が2名(1.9%)であった。(図 2-1)



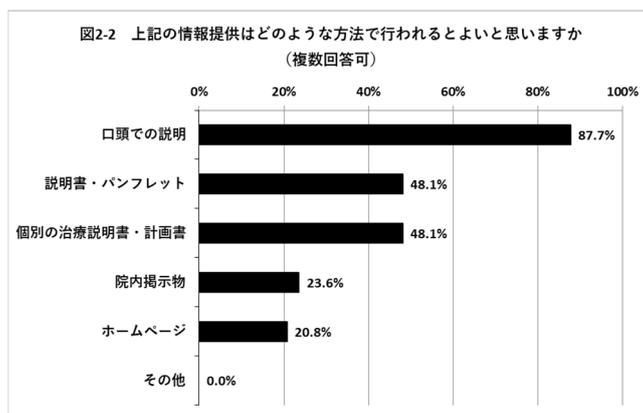
所在地別にみると、郊外の方が様々な項目を求める率が高く、特に「治療内容の利点・欠点について」「ほかの選択肢があるか」を選択する人が都市部より多かった。(図 2-1-1)

男女別にみると、女性の方が求める項目が多く、特に「自分の状態にあった治療法」「治療内容の利点・欠点について」を選択する人が男性より多かった。「最新の治療方法・技術」のみ、男性の方が女性より選択する率が高かった。(図 2-1-2)

年代別に見ると、「治療費用について」は 20 代と 50 代、「保険診療と自由診療の区別について」は 50 代、「最新の治療方法・技術」については 20 代と 60 代の関心が高かった。(図 2-1-3)

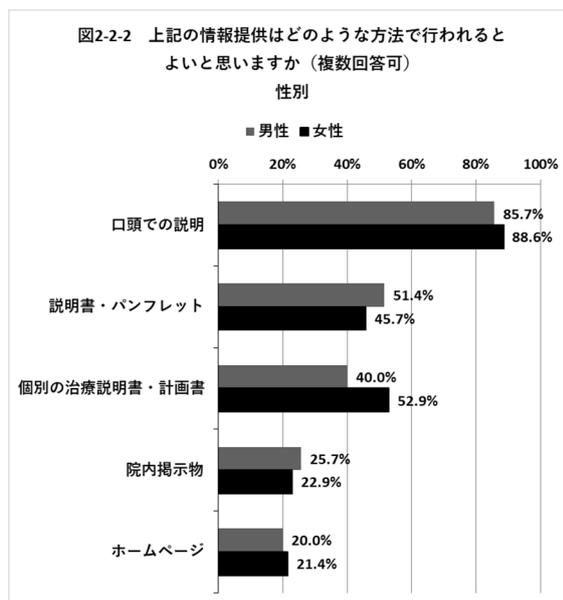
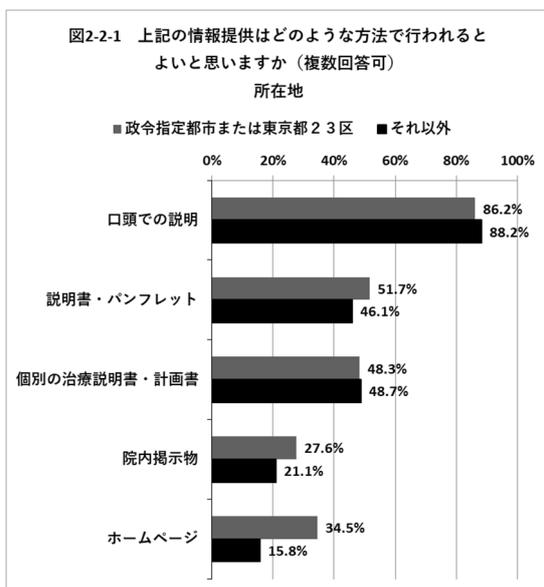


2-2 上記の情報提供をどのような方法で行われると良いと思うかは、「口頭での説明」が93名(87.7%)、「説明書・パンフレット」が51名(48.1%)、「個別の治療説明書・計画書」が51名(48.1%)、「院内掲示物」が25名(23.6%)、「ホームページ」が22名(20.8%)であった。(図2-2)

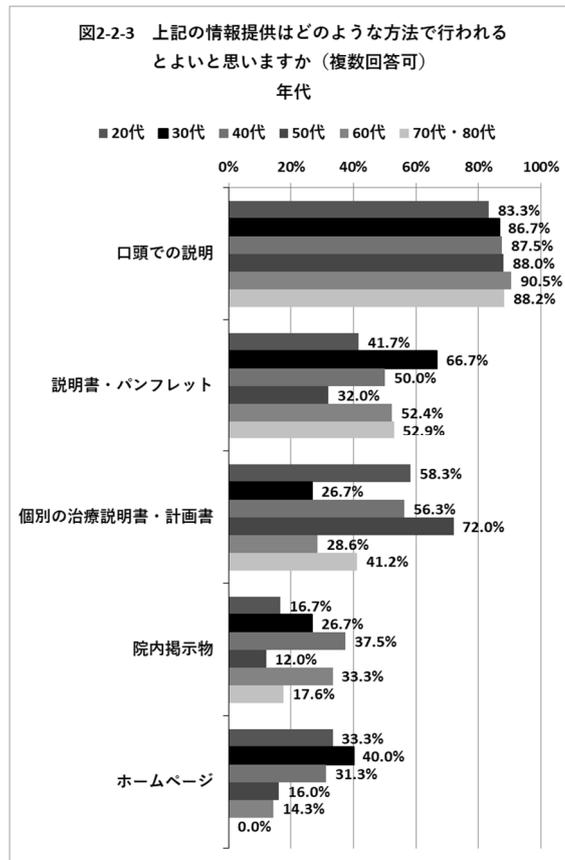


所在地別にみると、都市部の方がホームページを選択する率が高かった。(図2-2-1)

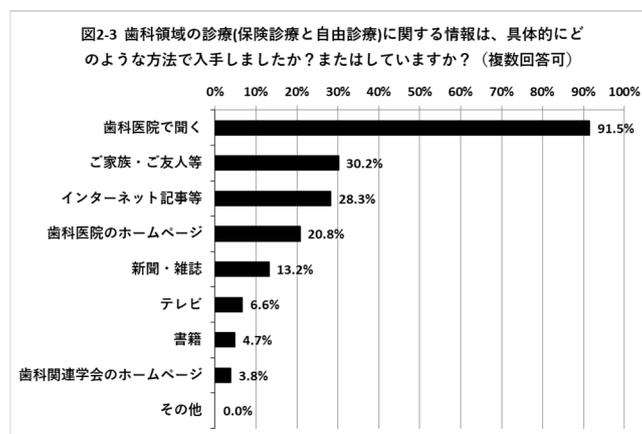
男女別にみると、女性の方がより「個別の治療説明書・計画書」を求める率が高かった。(図2-2-2)



年代別にみると、30代は「説明書・パンフレット」、20代と50代は「個別の治療説明書・計画書」を求める率がほかの年代より高かった。また、若い世代と高齢世代を比べると、若い世代の方がホームページをより多く選択していた。(図2-2-3)

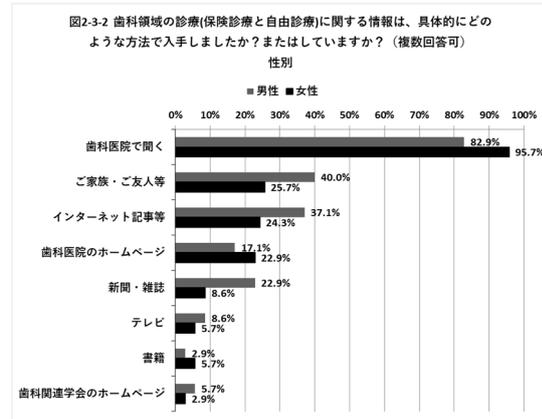
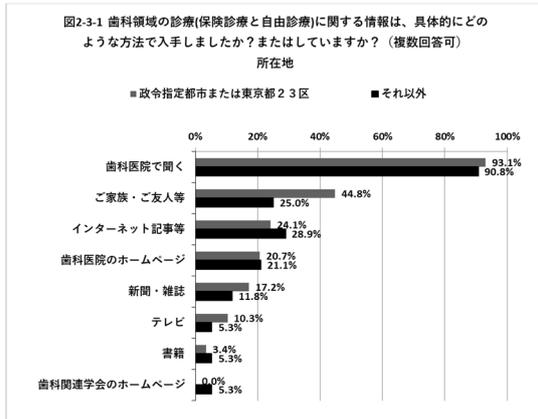


2-3 歯科領域の診療(保険診療と自由診療)に関する情報の具体的な入手方法は、「歯科
 医院で聞く」が 97 名(91.5%)、「ご家族・ご友人等」が 32 名(30.2%)、「インターネット
 記事等」が 30 名(28.3%)、「歯科医院のホームページ」が 22 名(20.8%)、「新聞・雑
 誌」が 14 名(13.2%)、「テレビ」が 7 名(6.6%)、「書籍」が 5 名(4.7%)、「歯科関連学会
 のホームページ」が 4 名(3.8%)であった。(図 2-3)

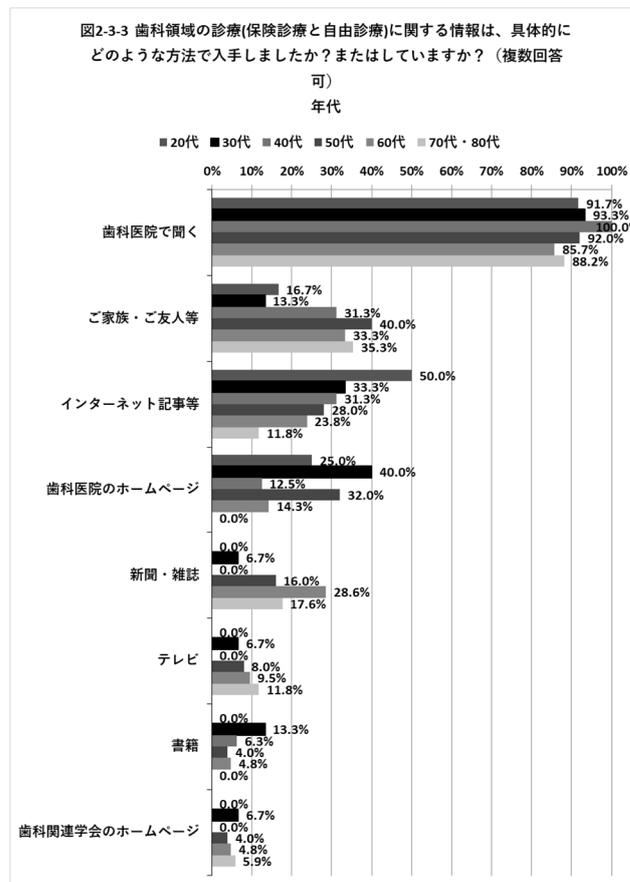


所在地別にみると、都市部では「ご家族・ご友人等」を選択する率が郊外より高かつ
 た。(図 2-3-1)

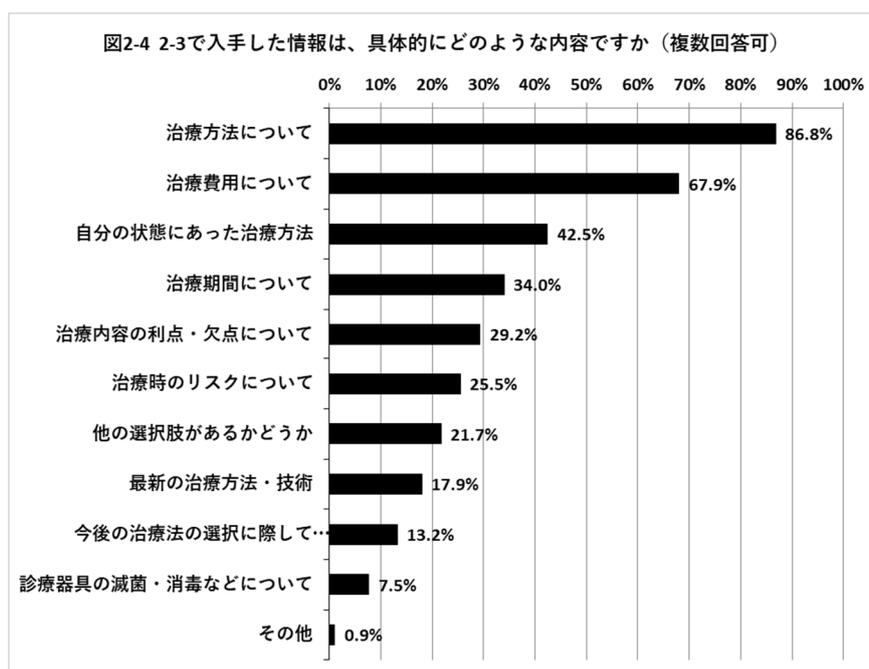
男女別にみると、男性は「ご家族・ご友人等」「インターネット記事」「新聞・雑誌」「学会のホームページ」を選択する率が女性より高く、女性は「歯科医院で聞く」を選択する率が男性より高かった。(図 2-3-2)



年代別にみると、20代は「インターネット記事等」、30代と50代は「歯科医院のホームページ」、60代は「新聞・雑誌」を選択する人がほかの年代より多かった。(図 2-3-3)



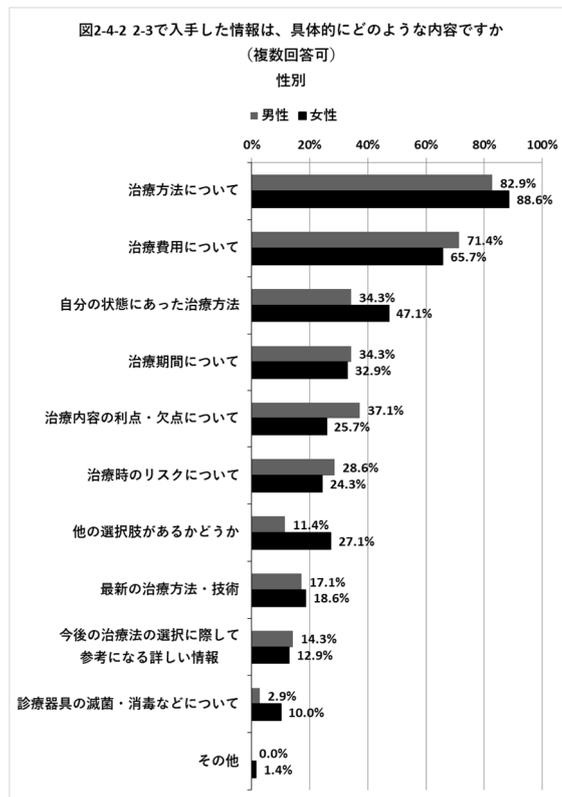
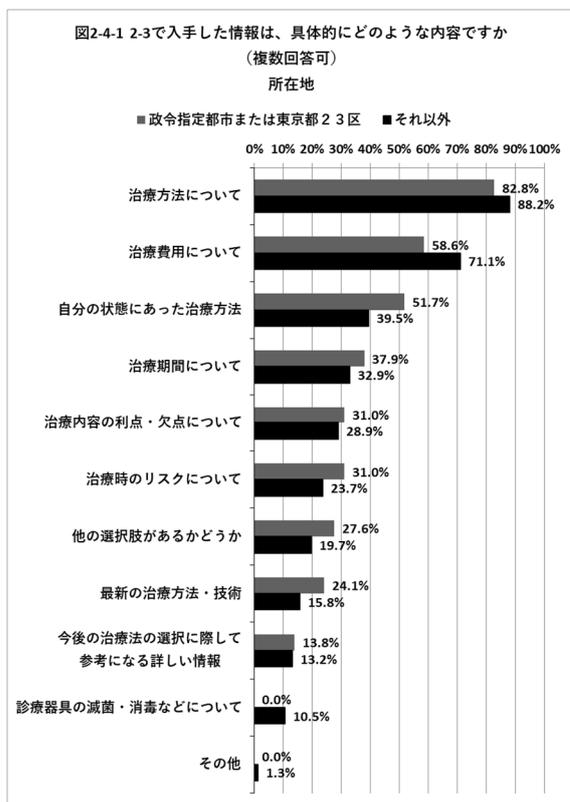
2-4 2-3 で入手した情報の具体的な内容が「治療方法について」は 92 名(86.8%)、「治療費用について」は 72 名(67.9%)、「自分の状態にあった治療方法」は 45 名(42.5%)、「治療期間について」は 36 名(34.0%)、「治療内容の利点・欠点について」は 31 名(29.2%)、「治療時のリスクについて」は 27 名(25.5%)、「他の選択肢があるかどうか」は 23 名(21.7%)、「最新の治療方法・技術」は 19 名(17.9%)、「今後の治療法の選択に際して参考になる詳しい情報」は 14 名(13.2%)、「診療器具の滅菌・消毒などについて」は 8 名(7.5%)、「その他」は 1 名(0.9%)であった。(図 2-4)

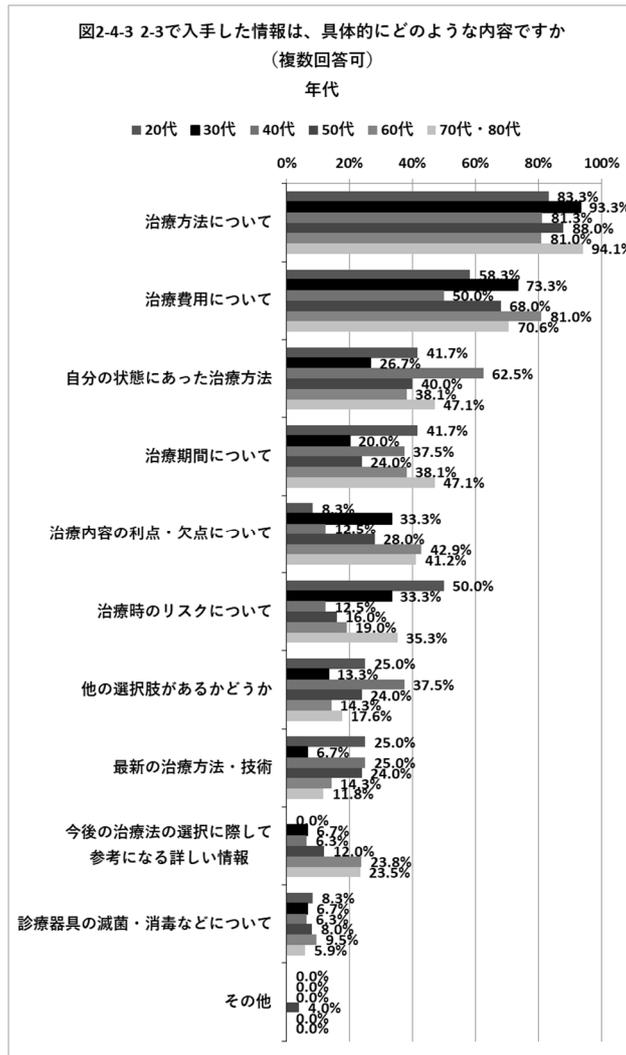


所在地別でみると、都市部では「治療方法について」「治療費用について」「診療器具の滅菌・消毒などについて」以外の項目で、郊外より選択する項目が多かった。(図 2-4-1)

男女別にみると、男性が「治療費用について」「治療内容の利点・欠点」を多く選択する一方、女性は「治療方法について」「自分の状態にあった治療方法について」「ほかの選択肢があるかどうかについて」を選択する率が高かった。(図 2-4-2)

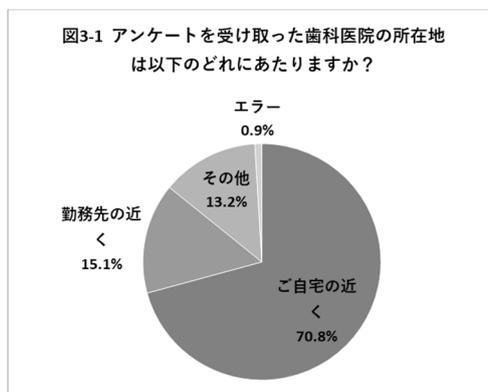
年代別にみると、20代は「治療時のリスクについて」、30代と60代は「治療費用について」、40代は「自分の状態にあった治療方法について」を選択する人が多かった。(図 2-4-3)





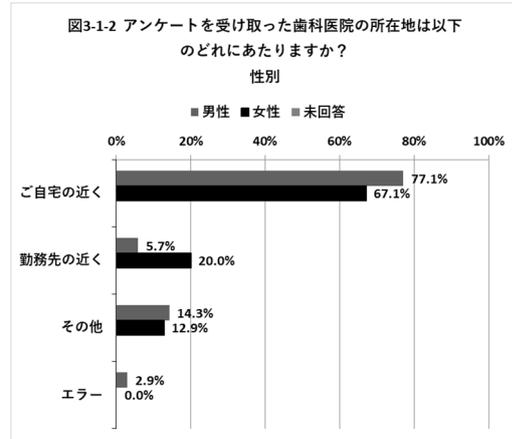
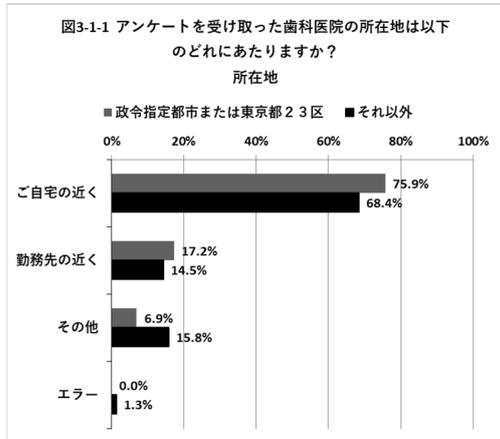
【3. アンケートを受け取った歯科医院での経験について】

3-1 アンケートを受け取った歯科医院の所在地が、「ご自宅の近く」は 75 名 (70.8%)、「勤務先の近く」は 16 名 (15.1%)、その他は 14 名 (13.2%)、エラーは 1 名 (0.9%)であった。(図 3-1)

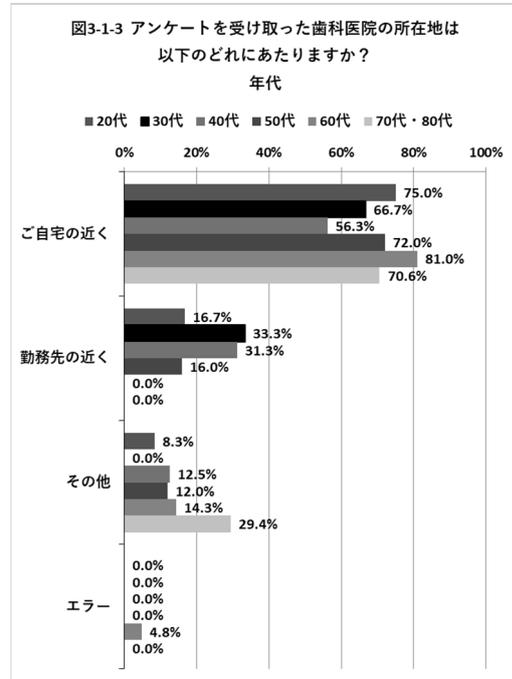


所在地別には、あまり大きな差は認められなかった。(図 3-1-1)

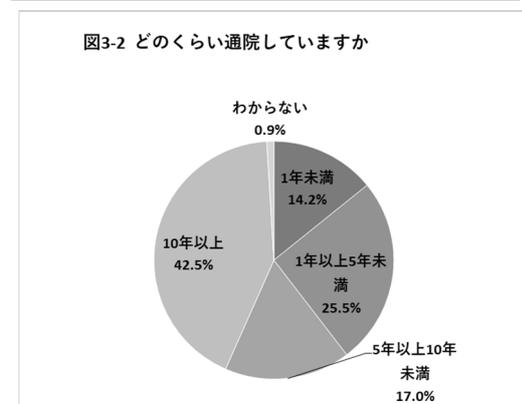
男女別にみると、男性は自宅近く、女性は勤務先近くを選択する率が高かった。(図 3-1-2)



年代別では、30代と40代は勤務先近くを選択する率が高かった。(図 3-1-2)

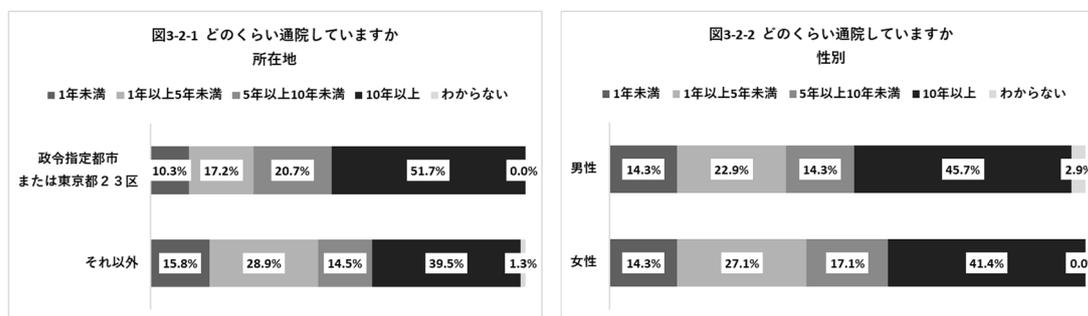


3-2 通院期間が「1年未満」は15名(14.2%)、「1年以上5年未満」は27名(25.5%)、「5年以上10年未満」は18名(17.0%)、「10年以上」は45名(42.5%)、「わからない」は1名(0.9%)であった。(図 3-2)

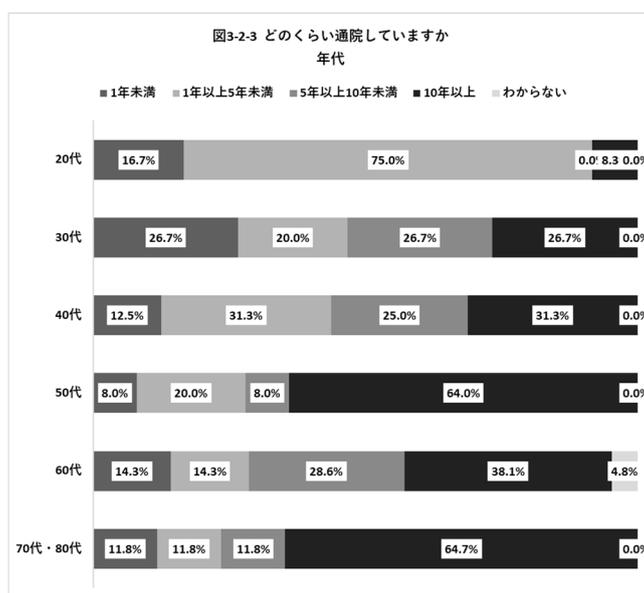


所在地別にみると、都市部の方が10年以上通っている率が高かった。(図 3-2-1)

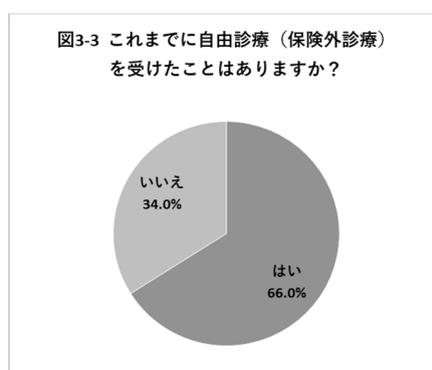
男女別にみると、男性は10年以上通っている率が女性より高く、女性は1年以上5年未満が男性より高かった。(図3-2-2)



年代別にみると50代と70代・80代は10年以上が多く、20代は10年以上が少なく、大半が1年以上3年未満であった。(図3-2-3)



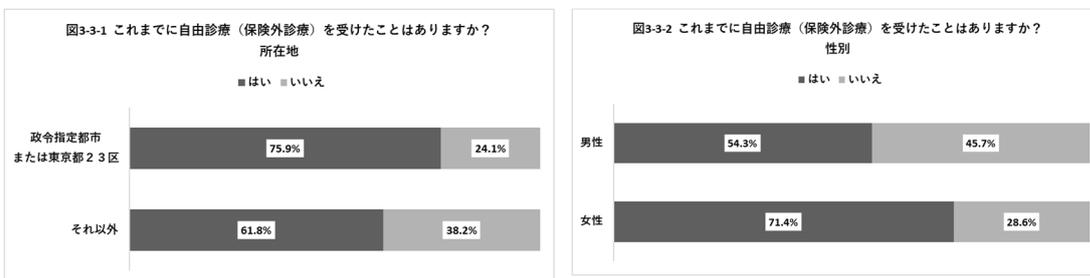
3-3 これまでに自由診療を受けたことがあるのは70名(66.0%)、受けたことがないのは36名(34.0%)であった。(図3-3)



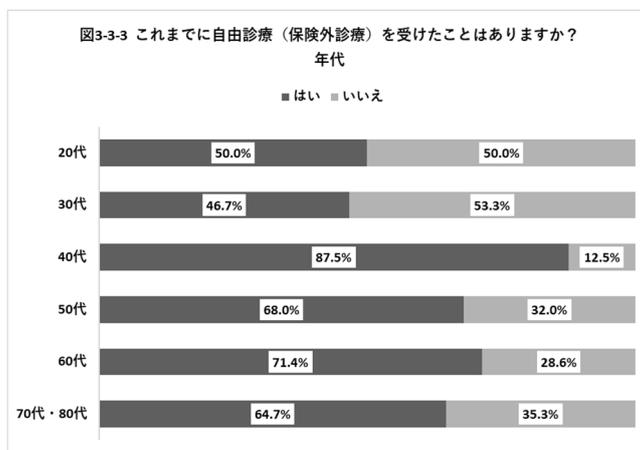
所在地別にみると、都市部の方が自由診療を受けたことがある率が高かった。(図3-

3-1)

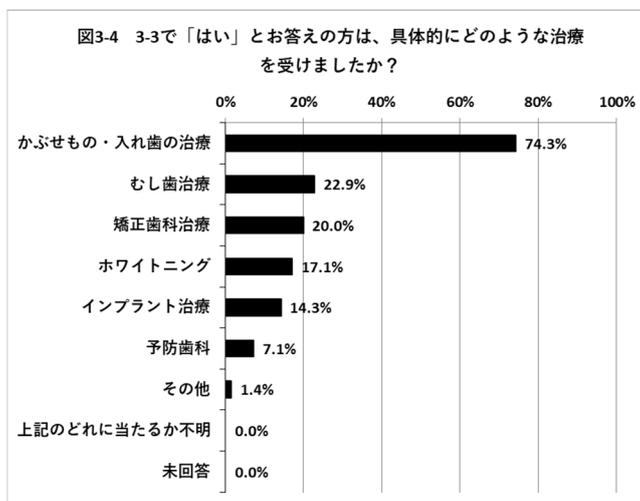
男女別にみると、女性の方が自由診療を受けたことがある率が高かった。(図 3-3-2)



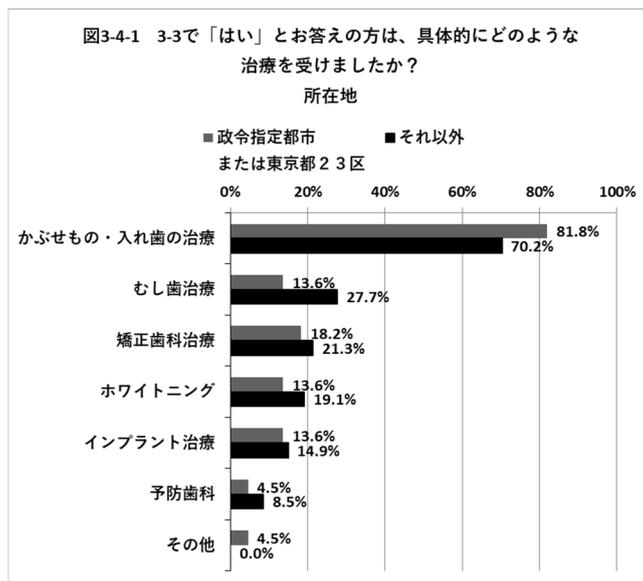
年代別にみると、40代が最も自由診療を受けたことがある率が高かった。(図 3-3-3)



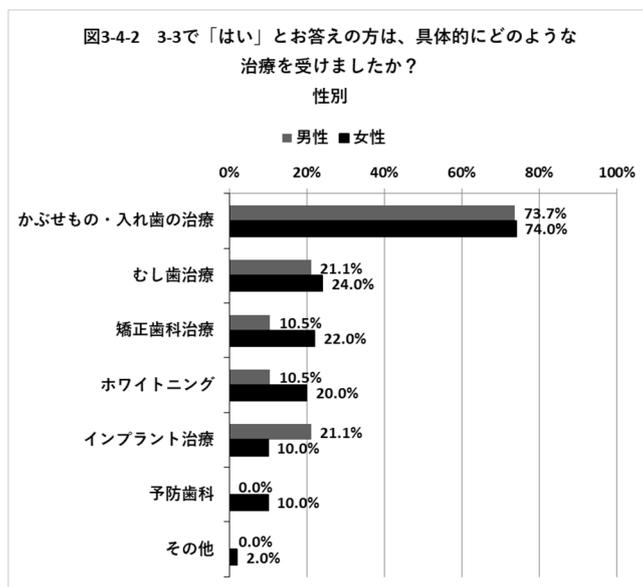
3-4 自由診療を受けた70名のうち、具体的に受けた治療が「かぶせもの・入れ歯の治療」は52名(74.3%)、「むし歯治療」は16名(22.9%)、「矯正歯科治療」は14名(20.0%)、「ホワイトニング」は12名(17.1%)、「インプラント治療」は10名(14.3%)、「予防歯科」は5名(7.1%)、その他は1名(1.4%)であった。(図 3-4)



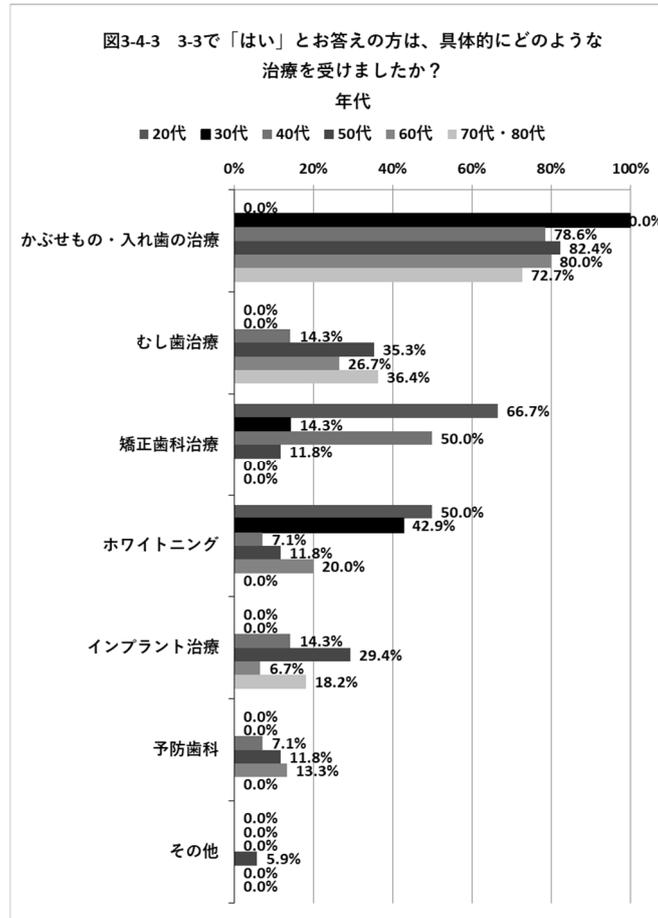
所在地別にみると、都心部で「かぶせもの・入れ歯の治療」が郊外より選択する率が高かったのを除き、そのほかの項目はすべて郊外の方が選択する率が高かった。(図 3-4-1)



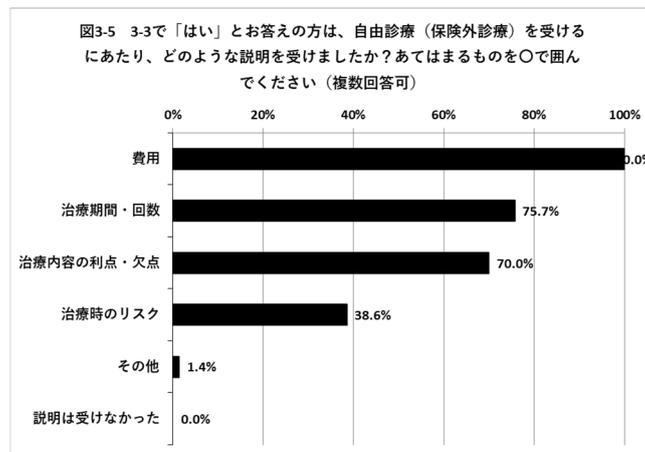
男女別にみると、男性が「インプラント治療」を多く選択する一方、女性は「矯正治療」「ホワイトニング」を選択する率が多かった。(図 3-4-2)



年代別にみると、矯正歯科治療は20代と40代が、ホワイトニングは20代と30代が、インプラントは50代がそれぞれほかの年代より多かった。(図 3-4-3)

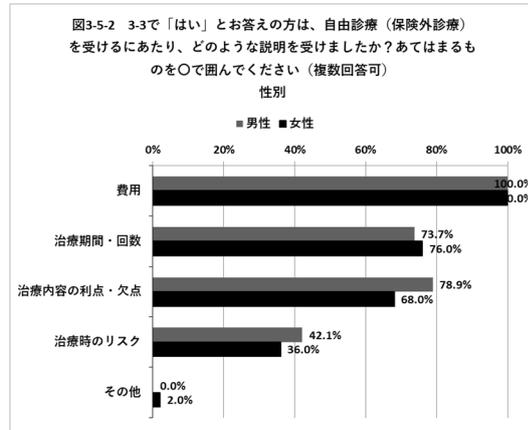
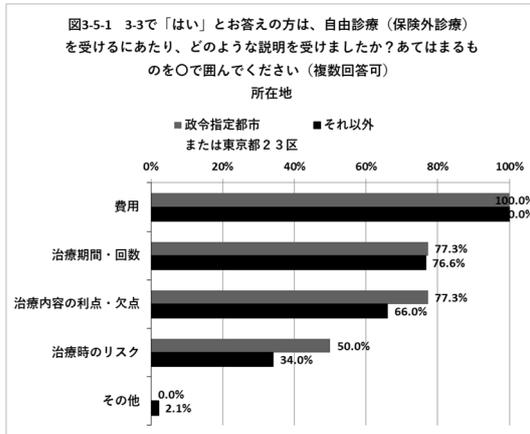


3-5 自由診療を受けた70名のうち、診療を受けるにあたりされた説明が「費用」は70名(100.0%)、「治療期間・回数」は53名(75.7%)、「治療内容の利点・欠点」は49名(70.0%)、「治療時のリスク」は27名(38.6%)、その他は1名(1.4%)、「説明は受けなかった」は0名(0.0%)であった。(図3-5)

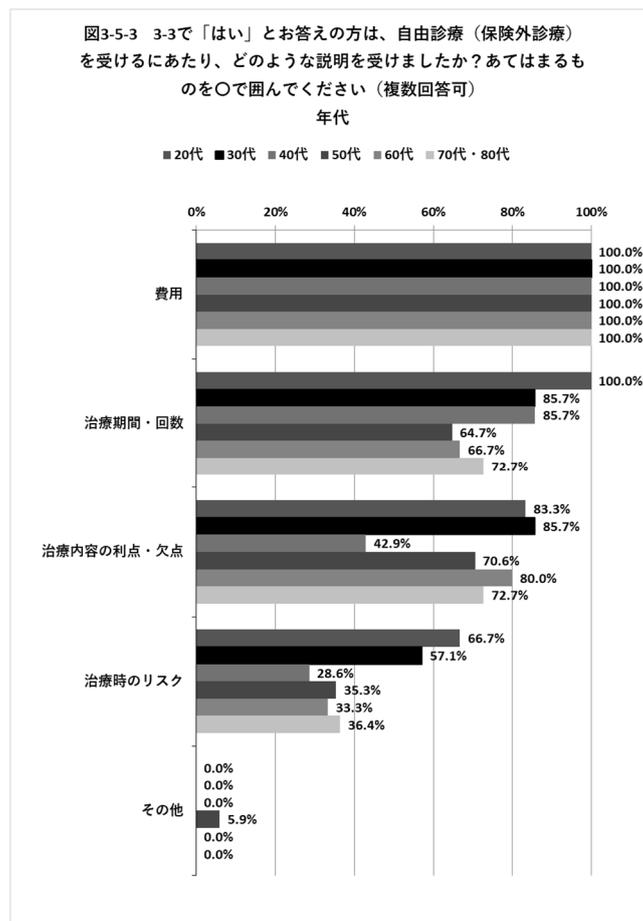


所在地別にみると、都市部の方が「治療内容の利点・欠点」「治療時のリスク」についてより説明されていた。(図3-5-1)

男女別でみると、男性の方が「治療内容の利点・欠点」「治療時のリスク」についてより説明されていた。(図 3-5-2)



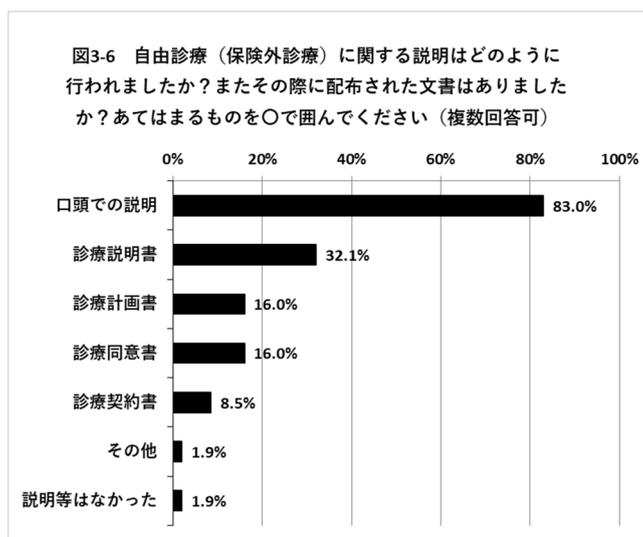
年代別にみると、40代への「治療内容の利点・欠点」の説明がほかの年代より低かった。(図 3-5-3)



3-6 自由診療に関する説明どのように行われ、その際配布された文書などがあつたか

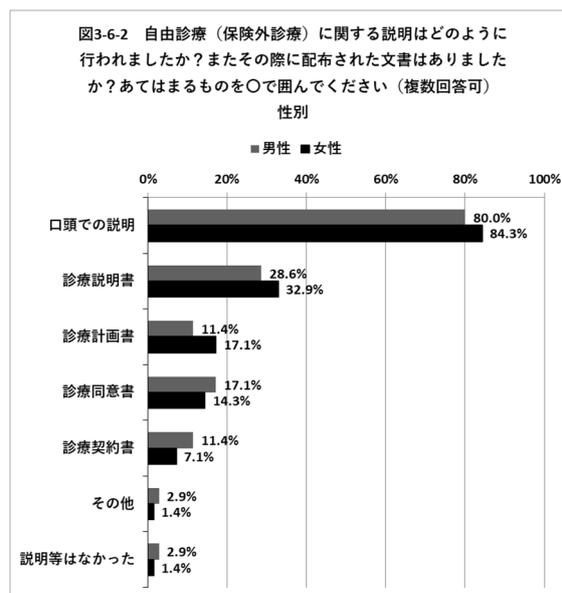
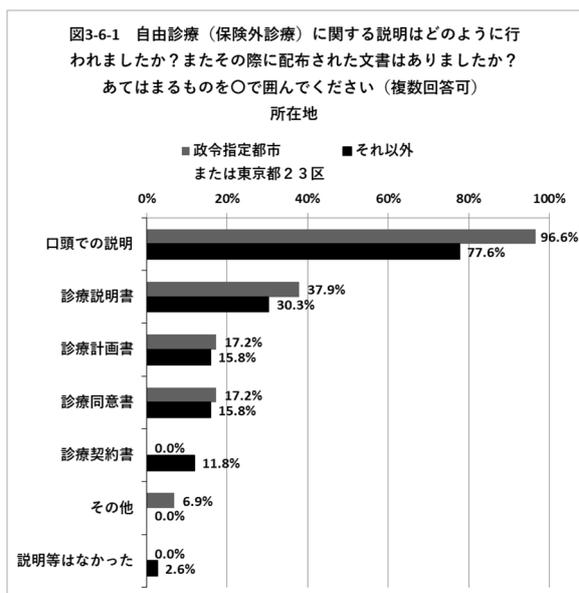
について、「口頭での説明」は 88 名(83.0%)、「診療説明書」は 34 名(32.1%)、「診療計画書」は 17 名(16.0%)、「診療同意書」は 17 名(16.0%)、「診療契約書」は 9 名(8.5%)、その他は 2 名(1.9%)、「説明等はなかった」は 2 名(1.9%)であった。(図 3-6)。

47 人(67.1%)は「診療説明書」「診療計画書」「診療同意書」「診療契約書」「その他」(回答例：見積書)いずれかの書類による説明を受けていた。

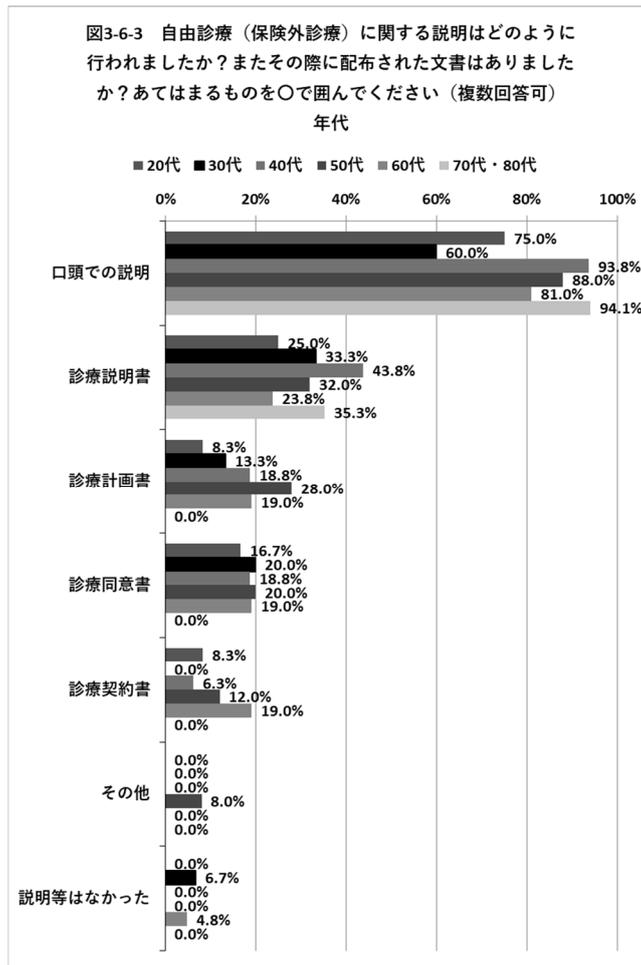


所在地別にみると、都市部の方が「口頭での説明」「診療説明書」が多かった。(図 3-6-1)

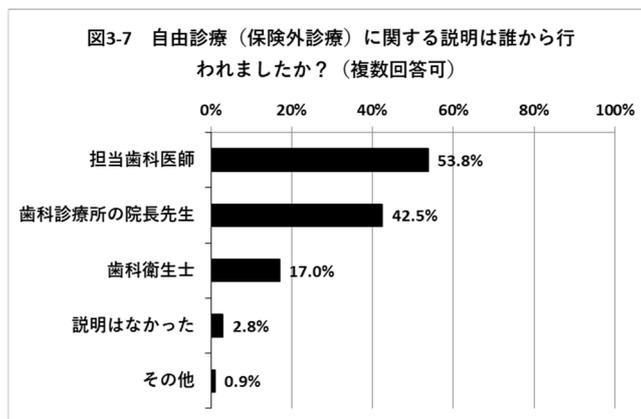
男女別にみると、男性は「診療契約書」、女性は「診療説明書」「診療計画書」を選択する人が多かった。(図 3-6-2)



年代別にみると、高齢層は口頭での説明を選択する人がより多かった。(図 3-6-3)



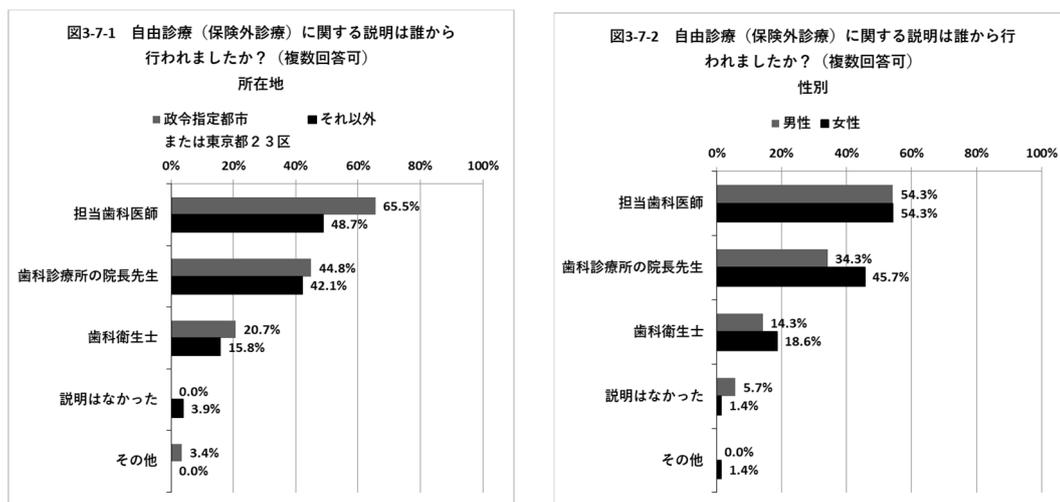
3-7 自由診療に関する説明を行ったのが、「担当歯科医師」は 57 名(53.8%)、「歯科診療所の院長先生」は 45 名(42.5%)、「歯科衛生士」は 18 名(17.0%)、「説明はなかった」は 3 名(2.8%)、その他は 1 名(0.9%)であった。(図 3-7)



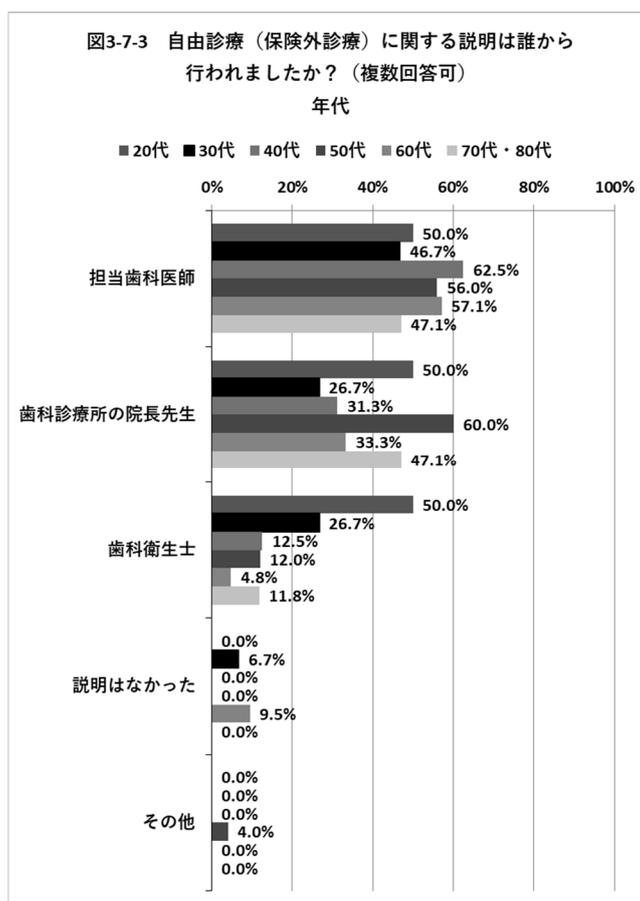
所在地別にみると、都市部の方が担当歯科医師から説明されている率が高かった。(図 3-7-1)

男女別にみると、女性の方が「院長先生」「歯科衛生士」から説明される率が高かった。

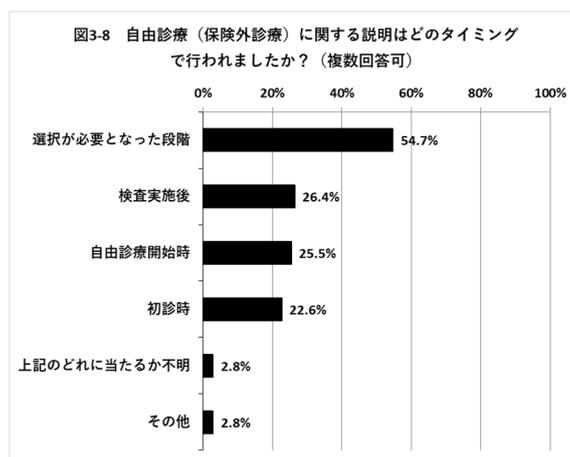
(図 3-7-2)



年代別では、20代はほかの年代に比べて歯科衛生士から説明される率が高く、50代は院長先生から説明される率が高かった。(図 3-7-3)

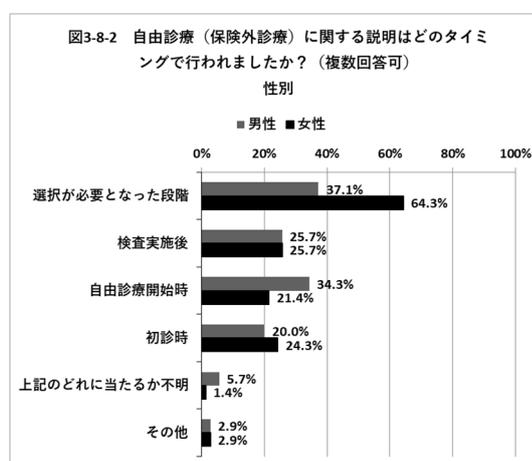
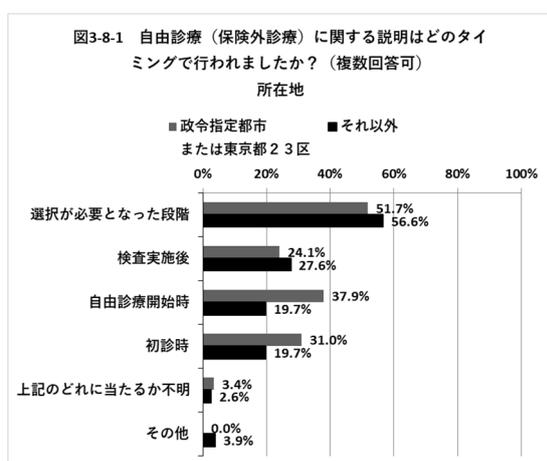


3-8 自由診療に関する説明が行われたタイミングが「選択が必要となった段階」は 58 名(54.7%)、「検査実施後」は 28 名(26.4%)、「自由診療開始時」は 27 名(25.5%)、「初診時」は 24 名(22.6%)、「上記のどれに当たるか不明」は 3 名(2.8%)、その他は 3 名(2.8)であった。(図 3-8)

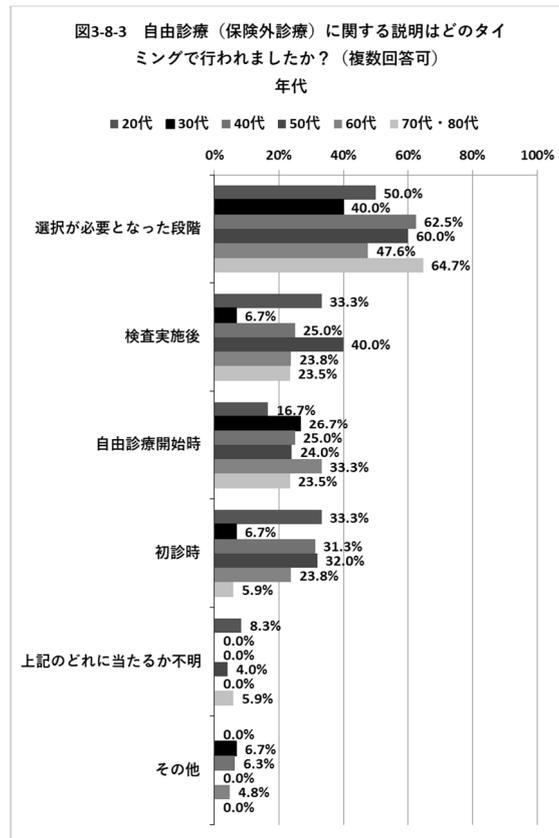


所在地別にみると、都市部では「自由診療開始時」「初診時」を選択する率が高かった。(図 3-8-1)

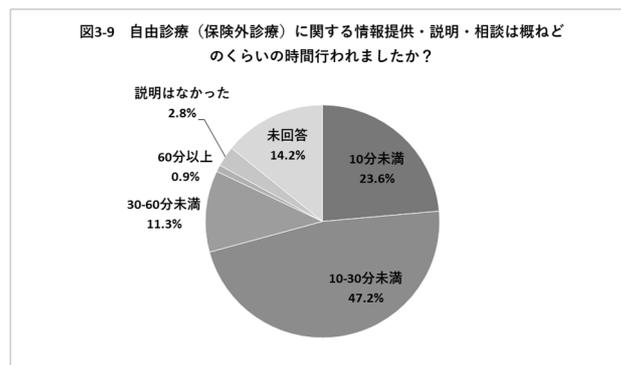
男女別では、女性が「選択が必要になった時」を選択する率が男性より著しく高かった。(図 3-8-2)



年代別では、30代が「検査実施時」「初診時」を選択する率が著しく低かった。(図 3-8-3)

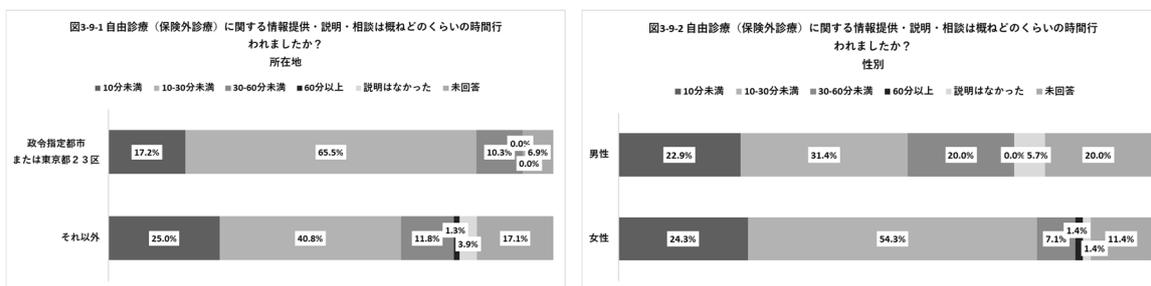


3-9 自由診療に関する情報提供・説明・相談にかかった概ねの時間が「10分未満」は25名(23.6%)、「10-30分未満」は50名(47.2%)、「30-60分未満」は12名(11.3%)、「60分以上」は1名(0.9%)、「説明はなかった」は3名(2.8%)、未回答は15名(14.2%)であった。(図3-9)



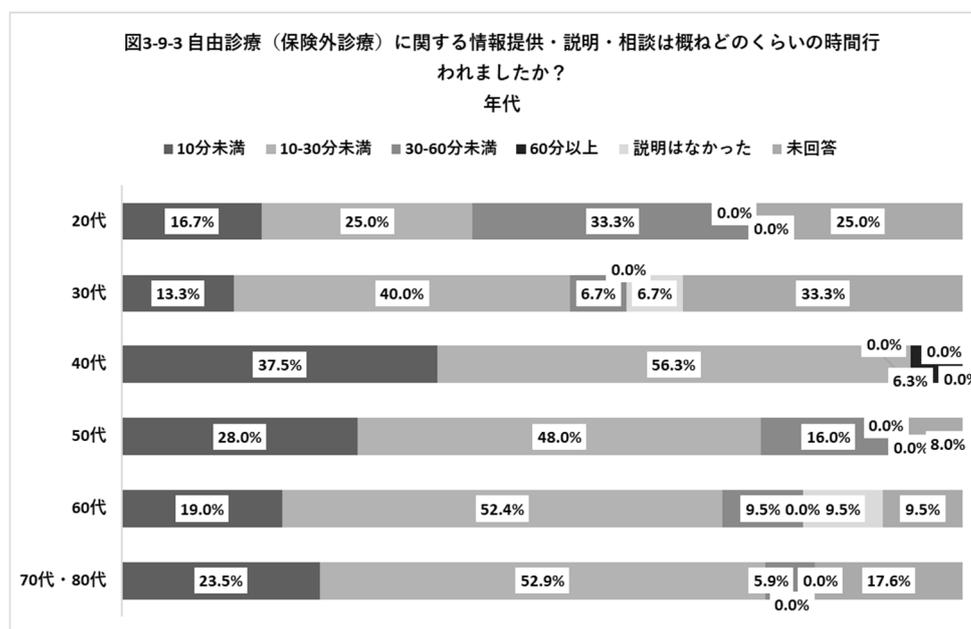
所在地別では、都市部の方が30分未満の説明が多かった。(図3-9-1)

男女別では、女性の方が「10-30分未満」の説明が多かった。(図 3-9-2)



年代別では40代が最も30分未満の説明が多く、20代への説明が長い傾向にあった。

(図 3-9-3)



D. 考察

今回の調査では、予算に限りがあり、日本歯科医師会会員の協力を得て、都道府県の会員数に比例させ無作為に抽出した会員 1,000 名に通院患者用アンケート調査用紙を送付し、同意の得られた 20 歳以上の勤務する歯科医院の患者 2 名に配布してもらう形式で調査を実施した。また、調査票に自由診療に関する設問が含まれるため、可能であれば自由診療の経験がある患者が望ましいことを郵送した歯科医師宛の鑑文に記載した。調査票を受け取った患者は、回答後専用の返信用封筒にて返送し、アンケートを渡された歯科医師に回答を知られることのないように配慮した。返送数は、146 部 (7.3%)、有効回答数は 106 部 (5.3%) と送付前の想定 (4 割程度) には届かなかったが、回答者の居住地は全国 6 ブロックの分布バランスはよく、都市部と郊外の比率は約 1 : 3、男女比約 1 : 2、年代分布も 20 代から 80 代まで幅広い患者層からの回答が得られた。各

設問に関しては、全数での結果に加えて、所在地、性別、年代別での集計を実施し考察を深めた。

回答者の状況としては、70.8%が「自宅近く」の、15.1%が「勤務先近く」の歯科医院に通院していた。居住地別では、「その他」の選択が郊外居住者により多くみられた。男女別・年代別では、「勤務先近く」が女性に、30代、40代に多く選択された。通院期間は、「10年以上」が42.5%であったが、「1年以上5年未満」も25.5%選択されていた。都市部、男性、50代、70代以上が10年以上の率が高く、20代では「1年以上5年未満」、30代では「1年未満」が他の年代に比べて多く選択された。

歯科領域の診療に関して、「治療方法」、「治療費用」、「自分の状態にあった治療方法」、「治療期間」に関する情報提供を望むとの回答が多くみられた。郊外に居住する回答者の方が希望する情報提供を多く選択する傾向がみられたが、「保険診療と自由診療の区別」、「他の選択肢があるかどうか」、「最新の治療方法・技術」に関しては都市部の回答者より多く選択されていた。男女別では、女性の回答者の方が希望する情報提供を多く選択する傾向がみられたが、男女間で選択に開きが見られた選択肢としては、「自分の状態にあった治療方法」（女性＞男性）、「治療内容の利点・欠点」（女性＞男性）、「他の選択肢の有無」（女性＞男性）、「診療器具の滅菌・消毒について」（女性＞男性）、「最新の治療方法・技術」（男性＞女性）であった。年代別では、「治療費用」が、20代と50代に、「保険診療と自由診療の区別」が50代に、「最新の治療方法・技術」が20代と60代に多くみられた。情報提供の方法としては、「口頭での説明」が最も多く選択され、次いで「説明書・パンフレット」、「個別の治療説明書・計画書」が選択された。居住地別では、都市部で「ホームページ」がより多く選択され、男女別では「個別の治療説明書・計画書」に開きが見られた（女性＞男性）。年代別では、30代では「説明書・パンフレット」をより多く選択し、「個別の治療説明書・計画書」はあまり選択されなかった。一方で20代と50代は「個別の治療説明書・計画書」が選択されていた。「ホームページ」は40代以下の回答者により多く選択されていた。

歯科領域の診療に関する情報の具体的な入手方法は、「歯科医院で聞く」が91.5%と圧倒的に多く選択された。「家族・友人」「インターネット記事」が3割程度選択されていた。所在地別では、都市部では「家族・友人」が郊外と比べ多く選択されていた。男女別では、「歯科医院で聞く」（女性＞男性）、「家族・友人」（男性＞女性）、「インターネット記事」（男性＞女性）、「新聞・雑誌」（男性＞女性）に開きが見られた。年代別では、「歯科医院で聞く」が60代以降ではほかの年代と比較し少なく、20代、30代では「家族・友人」の割合が少なく、「インターネット記事」は20代に最も多く年代が増え

るにつれ減少傾向が見られた。具体的に入手した情報は、「治療方法」、「治療費用」、「自分の状態にあった治療方法」などが多く選択された。居住地別では、郊外で「治療費用」が多く選択され、都市部では「自分の状態にあった治療方法」、「治療時のリスク」、「最新の治療方法・技術」が多く選択されていた。男女別では、「自分の状態にあった治療方法」（女性＞男性）、「治療内容の利点・欠点」（男性＞女性）、「他の選択肢があるかどうか」（女性＞男性）、「診療器具の滅菌・消毒」（女性＞男性）で選択率に開きが見られた。年代別では、40代で「自分の状態にあった治療方法」、「他の選択肢があるかどうか」が、20代で「治療時のリスク」、60代以降で「今後の治療法の選択に際して参考になる詳しい情報」が多く選択された。

自由診療の経験は66.0%があると回答し、都市部＞郊外、女性＞男性、年代では40代での選択率が高かった。受けた自由診療の内容は「かぶせもの・入れ歯の治療」が圧倒的に多く選択された、居住地別では「むし歯治療」、「ホワイトニング」が郊外＞都市部、「かぶせもの・入れ歯の治療」が都市部＞郊外と差が認められ、男女別では「矯正歯科治療」「ホワイトニング」「予防歯科」で女性＞男性、「インプラント治療」で男性＞女性と差が見られた。年代別では30代で「かぶせもの・入れ歯の治療」が多く（100%）選択され、20代では「矯正歯科治療」「ホワイトニング」が多く選択された。「インプラント治療」は50代でほかの年代よりも選択される率が高かった。

自由診療を受けた際、「費用」に関しては全員が説明を受けていた。「治療期間・回数」、「治療内容の利点・欠点」はそれぞれ75.5%、70.0%が説明を受けていたが、「治療時のリスク」では38.6%だった。「治療内容の利点・欠点」、「治療時のリスク」に関しては都市部＞郊外、男性＞女性と開きが見られた。年代別では、「治療内容の利点・欠点」が40代で42.9%とほかの年代と比べ低かった。全般的に20代・30代の方が説明された項目が多い傾向が見られた。また、これらの説明は「口頭での説明」が83.0%と圧倒的に多く、居住地別では都市部＞郊外と差が見られた。口頭での説明に加えて、診療説明書などの何らかの書類を配布されている割合は、67.1%であった。自由診療に関する説明は「担当歯科医師」からが53.8%、「歯科医院の院長」が42.5%からなされていた。

「担当歯科医師」からの説明は都市部＞郊外、「歯科医院の院長」からの説明は女性＞男性と開きが見られた。年代別では、20代は歯科衛生士からの説明を選択が50.0%とほかの年代と比べ多く選択されていた。自由診療に関する説明は、「選択が必要となった段階」が54.7%と最も多く選択された。「自由診療開始時」「初診時」は都市部＞郊外、「選択が必要となった段階」は女性＞男性、「自由診療開始時」は男性＞女性であった。年代別では、30代で「検査実施後」「初診時」がほかの年代と比べて選択されなかった。

自由診療に関する情報提供・説明・相談にかかった概ねの時間は、「10-30分未満」が47.2%と最も多く選択され、次いで10分未満が23.6%選択されていた。都市部では「10-30分未満」が65.5%と郊外に比べ多く選択されたが、一方で、郊外では10分以下が25.0%選択された一方で、30分以上の割合は郊外の方が多く選択されていた。女性は「10-30分未満」が54.3%と多く、男性は20.0%が30分以上を選択した。年代別では、「10分未満」が40代でほかの年代よりも多く選択されていた。

以上の結果をまとめると、患者は「治療方法」、「治療費用」、「自分の状態にあった治療方法」、「治療期間」に関して、「口頭での説明」に加え、「説明書・パンフレット」、「個別の治療説明書・計画書」による情報提供を望んでいることが明らかとなった。

情報の具体的な入手方法は、約9割が「歯科医院で聞く」と回答したが、同時に約3割は「家族・友人」「インターネット記事」からも入手していた。

自由診療の経験がある回答者が受けた診療の内容は「かぶせもの・入れ歯の治療」最も多かった。自由診療を受けた際、「費用」に関しては全員が説明を受けていた。口頭での説明に加えて、診療説明書など何らかの書類を配布されている割合は、約7割であった。自由診療に関する情報提供・説明・相談にかかった概ねの時間は、「10-30分未満」が最も多く選択されていた。

また、回答者の居住地、性別、年代で選択に差が見られる設問も認められた。

E. 結論

本調査の結果より、歯科診療に関して患者から求められている情報提供内容や、具体的な情報入手方法、自由診療時における情報提供の状況が示された。

F. 引用文献

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし